

令和元年度 第2回山梨県考古博物館協議会議事録

1 日 時 令和2年3月11日(水) 14:00～15:50

2 場 所 風土記の丘研修センター 研修室

3 出席者 (敬称略)

(委 員) 井出薫子、中村京子、保坂一仁、中島智子、末木健、
長澤宏昌、堀内秀樹、一宮英生、渡邊富孝、桐原ひかる

(事務局) 高橋館長、百瀬副館長、高野次長、小林学芸課長、職員3名
柳沢学術文化財課総括課長補佐

4 会議次第

(1) 開会

(2) 議事・その他

(3) 閉会

5 会議に付した事案等について

- 令和元年度考古博物館経過・予定事業について
- 考古博物館利用状況について
- 考古博物館収蔵品の適正な管理について
- 委員提言に対する対応・検討状況について
- 考古博物館運営方針及び現状と課題について
- その他

6 議事等の概要

- 令和元年度考古博物館経過・予定事業について

(委 員) 青銅鏡チョコ作り参加をフェイスブックに載せたところ、関西圏の友人から問い合わせが相次ぎ、これに合わせて山梨へ旅行に来たいという声もあった。現状、募集人数に限りがあるが、グループによる申し込みに対応した開催等できないか。

(事務局) 家族向けとして、事前申し込みにより随時開催しているイベントはある。この件に関しても今後検討したい。

(委 員) 今年度の特別展「縄文文化の頂点」は素晴らしかった。土器の裏面や下面に特徴がある土器については、そういう面も見られるように展示方法を工夫していただけると、より満足度が上がると思う。

(事務局) 過去に鏡を置いて多面的に見られるようにした事例はある。今回はできなかったが、今後参考にさせていただく。

○ 考古博物館利用状況について

【委員の意見なし】

○ 考古博物館収蔵品の適正な管理について

(委員) 収蔵品は数万点あると聞いており、中には非常に小さい遺物もある。職員がそれらを持ち出し自宅で保管しようとしたら、今回示された対策では防ぎようがないと思う。人的な方法では無く科学的な方法を模索して欲しい。他機関の管理方法を参考にしたいかがか。

本庁の学術文化財課でも、化石が保管されていないにもかかわらず、「ある」と報告され続けていた事例が報道された。マネジメントがどうなっているのか。

(事務局) 化石の紛失事案については、当初、化石が全点寄贈されたことの確認を精緻に行っていなかったと推測される。その後、化石が全点収蔵されたという前提で管理を学術文化財課の収蔵庫で行ってきた。過去3度それを確認する機会があり、その時点では無いことが分かっていたにもかかわらず、情報共有、引き継ぎができていなかった。昨年の備品の調査の際、それが判明したため、その旨を公表し関係者の処分を行った。収蔵のあり方を整理し、これらの化石を備品登録した上で、県民の皆さまにご活用いただけるよう県立博物館に保管転換を行った。今後は、歴史資料に限らず、備品について管理職が確認し引き継いでいく。

(事務局) 出土品の管理については、学術文化財課で全国調査を行ったところ当館が行っている以上の対策は特に無かった。また、今回の件をふまえて、公務員として、また研究者としてあるべき姿を再度認識するため当館及び埋蔵文化財センターの職員で研修を行っている。来年度は防犯カメラも設置する予定である。あまりに厳密な管理を行うと職員の研究に支障を来すというジレンマはあるが、県民共有の財産を保管活用するという責務を果たし、今後、こういった間違いが無いよう対策していく。

(委員) 小さい遺物全てをバーコードで管理しているような事例は他機関であるのか。

(事務局) 形になっている土器にバーコードを付けている事例はあるが、土器等の破片にも付けているかは確認ができていない。

(委員) 確かに小さい遺物は容易に持ち出せてしまうと考えられるが、現実的にはそこまで対応するのは不可能ではないか。

(事務局) 定期点検の他に抽出検査をする中で、保管庫に写真や実測図を貼付している。また、収蔵庫へ立ち入る際の時刻、氏名、目的等記録して管理している。複合的な対策をとる中で、このような事案が発生しないよう努めていく。

(委員) 現状の対策では納得できない。職員の資質の問題ではなく、環境の問題として捉え、県民の財産を管理して欲しい。

(委員) 各地の収蔵庫等を見てきたが、私も小さい遺物を一点一点管理することは現実的には不可能だと思う。現状の対策の他には、職員のモラルをどのように高めていくかが重要ではないか。

(委員) 紛失土器を県費で買い取っているが、今後の対応は。

(事務局) 現在顧問弁護士等と協議中である。

(委員) 収蔵庫という場所の性質からも、一人にならないような対応が必要。監視カメラについては、誰が出入りしたか記録が残るため、機能を果たせると思う。

(委員) 前回、土器の注記が剥がされているという報告があったが、戻ってきた土器の状態は。

(事務局) 4点の土器のうち、2点は持ち出された状態のまま。1点は注記が一部消されていた。1点は購入者の意向で一部修理されているが、資料的には問題ない状態である。

○ 委員提言に対する対応・検討状況について

(委員) 来年度、考古博物館が教育委員会から知事部局に移管するとの報道があったが、事業内容や予算編成に影響があるのか。

(事務局) 現在の観光部が改称され、その新しい部の所管となる。文化財や社会教育施設は、保存と活用が両輪で行われて効果を発揮するものであり、この二つの軸を強力に進めていくという趣旨。予算編成については、必要な事業を促進していくという点で変わらないが、観光部門、教育委員会とより密接に連携し、観光と社会教育の両面を推進していく。

(委員) 2月22日の館長講座が前日に中止となったが、ホームページ以外で案内はしたか。

(事務局) 事前申し込みのない講座で個別の連絡は不可能だったため、当日会場に待機して案内を行った。7、8人の方に中止となった経緯を説明し、了解を頂いた。

(委員) 観光部に移管するにあたり、観光が最優先となったり、企画展や特別展が費用対効果という点だけで評価されるようになったり、という方向に流れないかと危惧している。他館と連携しつつ、県民の教養の向上や県民文化の発展に資するという本来の博物館のあり方を主張する姿勢は崩さないでほしい。

(事務局) 2月議会で知事が答弁した内容を紹介させていただく。「観光と文化の相乗効果による地域経済の活性化と地域文化の振興を図り、これを通じて今後何世代にもわたって地域文化を引き継いでいける体制の確立に努めてまいりたい。また、文化芸術に知見を有する専門家の意見を十分尊重するとともに学校教育、社会教育との連携や、文化行政に携わる人材の専門性の向上等施策を支える基盤の構築にも十分配慮してまいりたい」。この答弁をふまえ、社会教育の推進と地域づくりをすすめていく。

(委員) 観光部局に移管されるということで、観光で訪れる県外の方にどのように見せるか、ということが重要になると思う。何か一つ、これだけは見て、心に留めて帰ってほしい、というような見せ方の工夫が必要では。

(事務局) できる限り対応したい。

○ 考古博物館運営方針及び現状と課題について

(委員) ミュージアム甲斐 in 券（4館共通年間パスポート）が大変良いものだと思うが知っている人が少ない。受付でもっと分かり易く案内掲示するなどして紹介し

てはどうか。

(事務局) 前向きに対応したい。

(委員) 新聞に甲斐銚子塚古墳等の巨大古墳が「SNS 映えする古墳賞」を受賞した、とあったが、SNS上の反応は。

(事務局) 埋蔵文化財センター主催のシンポジウム「やまなし古墳めぐりグランプリ」において受賞し、反響をいただいている。SNS上では、縄文に関する反響が大きいが、古墳のことを知らない方はまだまだ多いため、古墳のある曾根丘陵公園のPRに力をいれていきたい。

(委員) 古墳のある曾根丘陵公園は空気が良く安全で子供が遊ぶのに絶好の場所。今、子供たちが行き場が無くて困っている。この機会にこの古墳の景観や環境を知り、理解を深めてほしいと思っている。

(委員) 30年以上前に策定された「山梨県立考古博物館設置及び管理条例」には「古代文化に関する県民の知識を深め、教養の向上を図り、もつて県民文化の発展に寄与するため、考古博物館を設置する」とあるが、現在、考古博物館は古代だけでなく近現代の資料も扱っている。幅広い歴史資料を、と直しては。特別展では海外の資料の展示も行っている。コンセプトも「原始古代」にこだわらず、分野を広くとらえていった方が良いのでは。

博学連携について、一般的には博物館と学校だが、一方、大学等の研究施設とどのようにタイアップしてその成果を展示の中に生かしていくか、という視点も必要では。

関係機関との連携について、古市百舌鳥古墳群が世界遺産登録されたこの機会に、東日本の非常に大きな古墳である甲斐銚子塚を積極的にPRする必要があるのでは。縄文に関しては、縄文文化の代表的な地域であるので、地域づくりの核としてほしい。海外で「武田信玄」は知られていないが、「サムライ」は反応が良い。考古博物館なりに、中世のサムライの代表として城と武田信玄を打ち出す、ということもできるのでは。

(委員) 来年度の特別展「甲府城のすべて」に期待している。山梨の高校生が甲府城の石垣の価値を知らないことが残念。高校生は部活動等で忙しく時間が無いが、史跡としての価値を理解してもらえるよう、先生方から勧めて貰う等、高校生を呼び込む工夫を検討してほしい。

(委員) 「わたしたちの研究室」は素晴らしい取り組み。また、児童・生徒数が減少する中で小中学生の利用数が横ばい傾向なのは努力している結果である。子供たちにとってより魅力的な場所であるために、トイレやロッカーといった設備、利用の仕方への意見など、教育現場の先生方の声を聞くシステムがあると良い。

(委員) 「わたしたちの研究室」は、教育委員会を離れても継続してほしい。個人研究の他に団体賞がある。これがあると教育課程の中に、ここでの発表を視野に入れた特色ある取り組みを取り入れることができ、学校の励みにもなる。学校への賞のPRも行ってほしい。

小さい子供にとってトイレの問題は重要で、今は洋式しか使えない子供が大半。明るく清潔で、誰でも使えるという事がとても大切である。特別支援学校も含め、子供たちはバリアフリー、ユニバーサルデザインの施設に慣れている。ぜひ対応していただき、その点をPRしてほしい。

利用者数の増加について。校長会の場で施設等の説明があると、文書のみを送付より効果がある。素晴らしい展示があるので、ぜひお願いしたい。

また、本校の子供たちは、近場にある県立博物館に行くことが多いが、学芸員が声を掛けてくれるのを楽しみにしている。考古博物館でも、子供たちに声を掛け、親しみがある考古博物館にしてほしい。

学校行事で来館するには予算措置が必要で、実現できない場合もあるので、出前講座を充実してPRしてもらおうと利用の機会が増えると思う。

来年度から小学校では新学習指導要領が始まり、「社会に開かれた学校教育」が大きな目標となる。「未来を拓く山梨の人づくり」という視点で考古博物館にもぜひ力添えを頂きたい。

(委員) 共働き家庭は夏休みであっても平日のイベントには参加しにくい。夕方以降のイベントがあれば行きやすく、次につながるのでは。出前講座も充実してほしい。PTA等でイベントを考える中で、考古博物館でできる体験を、外でもさせてもらえればありがたい。

(委員) 文化庁が作成した「多様なニーズに対応した美術館・博物館のマネジメント改革のためのガイドライン」については、考古博物館は既に沢山の課題に取り組んでいると感じた。文化芸術基本法に関して、これまでの芸術文化美術にとって重要なものを保護活用する、という文脈の中に経済という異なるスケールが入ってくることを明確に感じ、「稼げない」という視点が入ってくることの怖さを感じている。ただし、今の方針が継続的かは疑問がある。文化財においては、

活用と保護・保存が反比例する状況も多々あるはずであり、その場合のボーダーラインを明確にするような検討をしていった方が良いのでは。

- (委員) 観光部に移管されるということだが、観光ではスポットではなくストーリーが重要とされる。運営方針にもストーリー性を盛り込んでみてはいかがか。
- 山梨県立大の観光講座では、バスツアーを取り入れており、好評。考古学講座でも、バスツアー等開催しては。
- 夜間に、考古博物館開館や青銅鏡チョコレート講座開講を行ってみて、ニーズがあるか試してみてもどうか。
- また、昨今、人生 100 年時代、リカレント教育の推進、ということが言われているので、年配の人を対象とした講座を検討しては。
- 産学連携して、土器文様と印伝コラボ等を取り入れて発信できると良い。
- ユニークベニュー促進では、観光部の MICE 誘致と協力し、アイメッセに誘致した会議の参加者に“復元竪穴住居に泊まれる”等の特別なプログラムを用意してみてもは。
- 土器の人気投票を行っているが、他県と連携して投票先を広げ、SNS で発信するのも面白いのではないか。

○その他

- (委員) 山梨の潜在能力の大きさを鑑み、また、本日の各委員の意見を踏まえる中で、さまざまな課題・提案を検討してほしい。

以上